

≪最近の県内経済≫ (2026年7月を中心として)

今月の概要

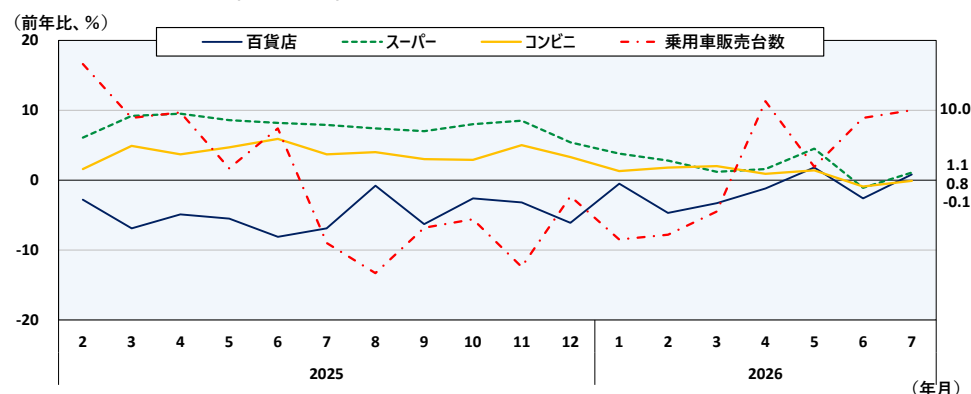
物価情勢を巡る不透明感はあるが、足許は緩やかに回復している



1 個人消費 ～緩やかに持ち直している

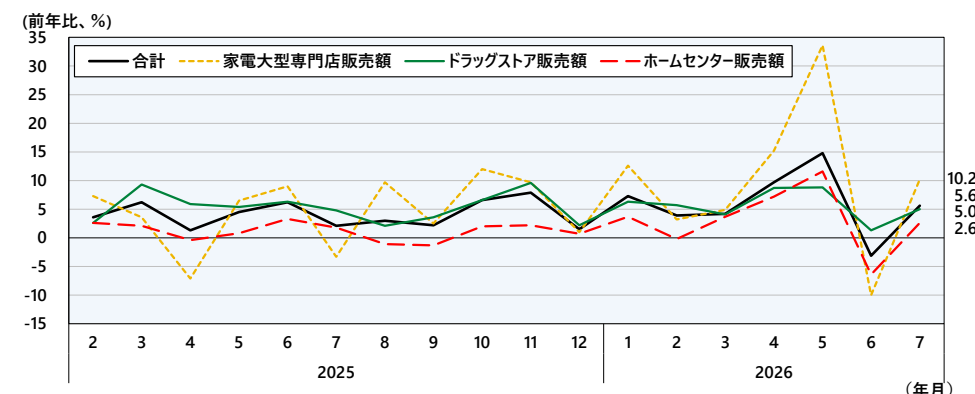


百貨店/スーパー/コンビニ販売額、乗用車販売台数【前年比】



(資料) 経済産業省、埼玉県自動車販売協会など

専門量販店販売額【前年比】



(資料) 経済産業省

個人消費は、緩やかに持ち直している。

7月の百貨店およびスーパーの販売額（店舗調整前）をみると、百貨店は113億円で前年比0.8%増（2か月ぶりの増加）、スーパーは1,192億円で同1.1%増（2か月ぶりの増加）となった。また、コンビニ販売は634億円で同0.1%減（2か月連続の減少）となった。

引き続き節約志向が見られるものの、猛暑による夏物需要が売上げに貢献した。

乗用車販売は、前年比10.0%増と4か月連続の増加となった。内訳をみると、普通車が同6.3%増（4か月連続の増加）、小型車が同12.1%増（4か月連続の増加）、軽自動車と同14.0%増（4か月ぶりの増加）となった。

一部車種における改良や新型車が販売増に寄与した。

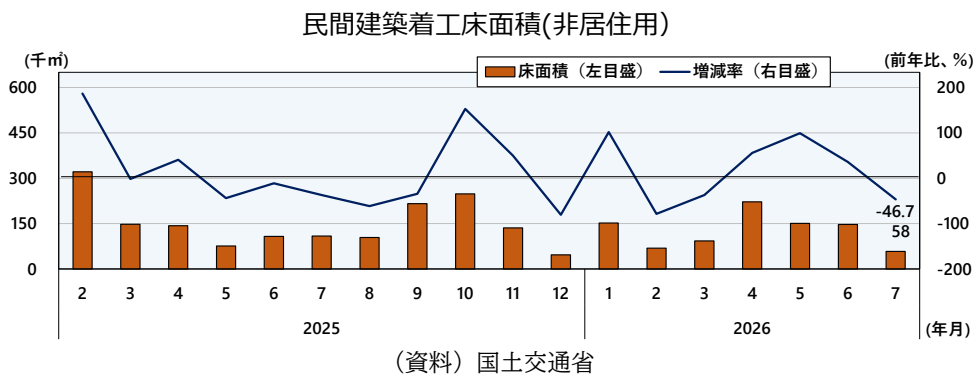
7月の専門量販店販売額は930億円で前年比5.6%増と2か月ぶりに増加した。内訳をみると、家電大型専門店が224億円で同10.2%増（2か月ぶりの増加）、ドラッグストアが497億円で同5.0%増（50か月連続の増加）、ホームセンターが209億円で同2.6%増（2か月ぶりの増加）となった。

家電大型専門店では、エアコンの販売が、梅雨明けの猛暑の中、改めて2027年問題（省エネ基準の大幅引上げ）が認識されたこともあり好調だった。

ホームセンターでは、夏物季節商品の販売が堅調だった。

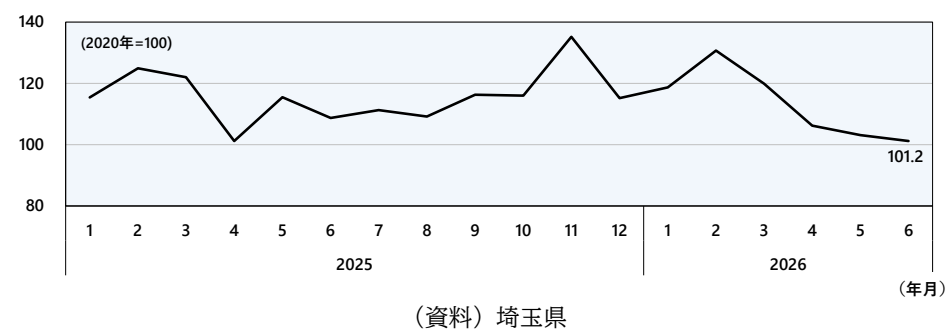
関東1都6県の消費者態度指数（原数値）は、6月〈34.4〉、7月〈35.2〉、8月〈35.6〉と推移している。

2 設備投資～増加基調にある ➡



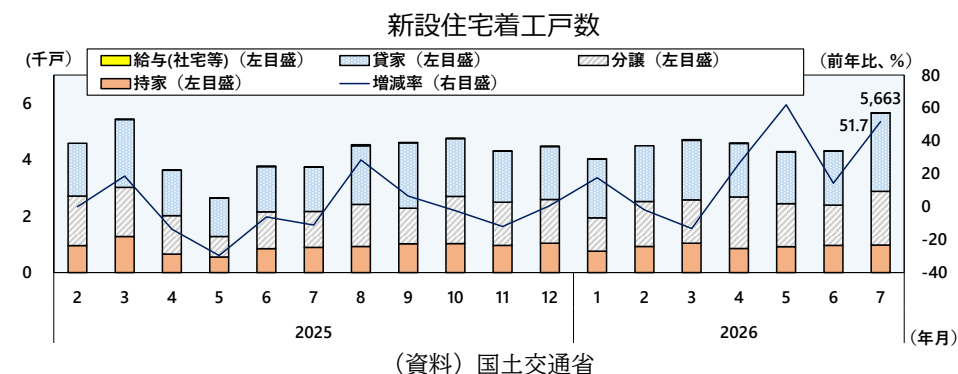
7月の民間建築着工床面積(非居住用)は、58千㎡で前年比46.7%減少した(5か月後方移動平均では、前年比15.0%増加)。用途別にみると、事務所、学校の校舎は増加したものの、店舗、工場及び作業場、倉庫、病院・診療所は減少した。

資本財出荷指数(季節調整済)



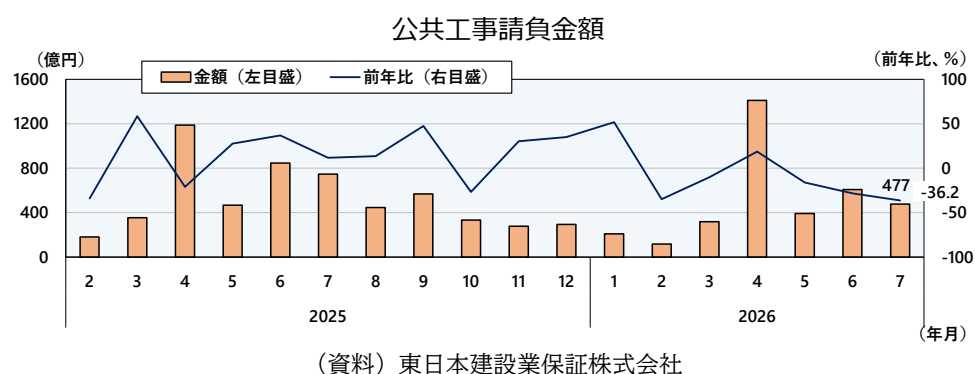
6月の資本財出荷指数(季節調整済)は101.2で、前月比1.8%減少した(5か月後方移動平均では、112.2で前年比2.0%減少)。

3 住宅建設～弱含んでいる ➡



7月の新設住宅着工戸数は、前年の落込みの反動もあって5,663戸で前年比51.7%増加した(5か月後方移動平均でも、4,709戸、前年比22.6%増)。利用関係別にみると、持家(975戸)が同8.8%増、貸家(2,776戸)が同77.5%増、分譲マンション(799戸)が同244.4%増、分譲一戸建て(1,097戸)が同9.6%増となった。

4 公共工事～底堅く推移している ➡

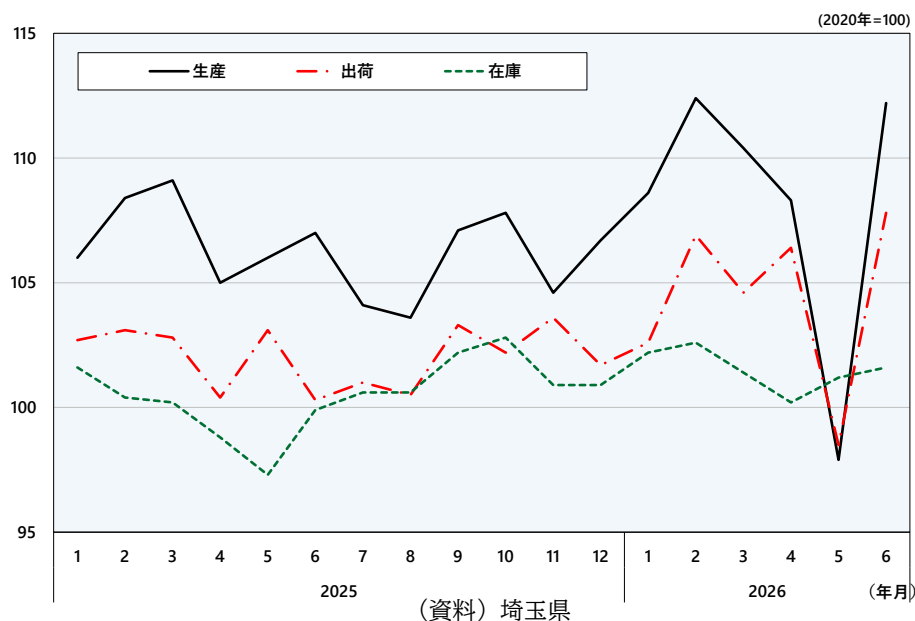


7月の公共工事請負額は477億円、前年比36.2%減少した。5か月後方移動平均では、641億円、前年比11.0%減で推移。

発注者別の前年比をみると、国、独立行政法人等、都道府県、市区町村、地方公社、その他のいずれも減少した。

5 生産活動～底堅く推移している ➡

鉱工業生産・出荷・在庫指数(季節調整済)



6月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、112.2で前月比14.6%上昇(4か月ぶりの上昇)した。

生産用機械(包装・荷造機械、整地機械)、窯業・土石製品(ほうろう鉄器製品、コンクリート系パネル)などが低下したが、輸送機械(航空機用部品、懸架制動装置部品)、化学(医薬品、化粧品)などが上昇した。

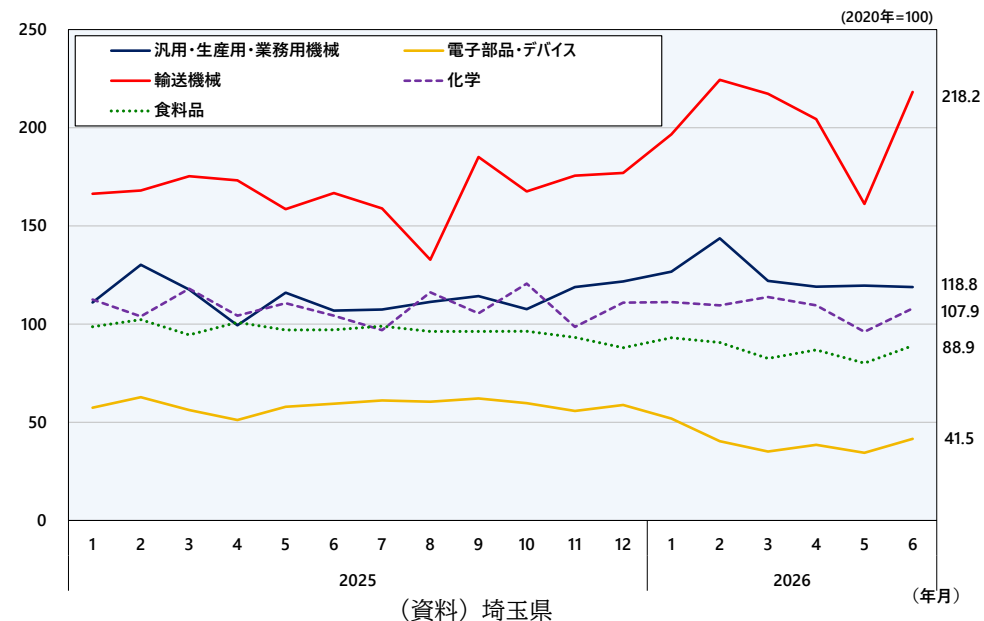
出荷指数(同)は、107.8で同9.4%上昇(2か月ぶりの上昇)した。

情報通信機械(金銭登録機(端末機能付)、交換機)、生産用機械(包装・荷造機械、農業用乾燥機)などが低下したが、化学(医薬品、化粧品)、輸送機械(航空機用部品、懸架制動装置部品)などが上昇した。

在庫指数(同)は、101.6で同0.4%上昇(2か月連続の上昇)した。

窯業・土石製品(セメント、遠心力鉄筋コンクリート管)、非鉄金属(伸銅製品、アルミニウム圧延製品)などが低下したが、輸送機械(乗用車、けん引車)、電気機械(鉛蓄電池、電気計器)などが上昇した。

主要業種の生産指数(季節調整済)



・汎用・生産用・業務用機械の生産指数(季節調整済)は、118.8で前月比0.6%下降し、2か月ぶりの下降となった。

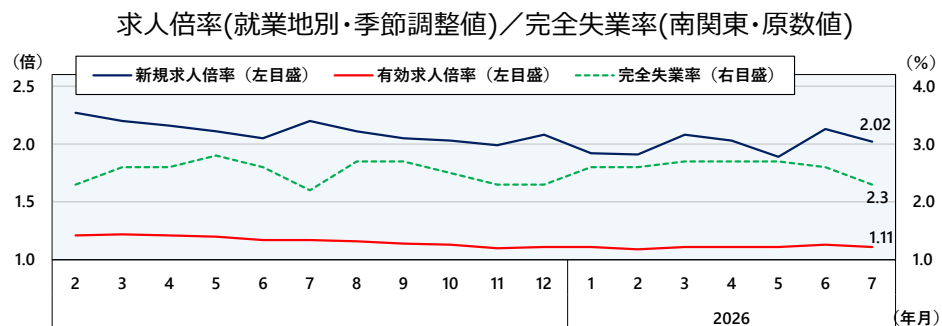
・電子部品・デバイス(同)は、41.5で同20.6%上昇し、2か月ぶりの上昇となった。

・輸送機械(同)は、218.2で同35.4%上昇し、4か月ぶりの上昇となった。

・化学(同)は、107.9で同12.4%上昇し、3か月ぶりの上昇となった。

・食料品(同)は、88.9で同11.0%上昇し、2か月ぶりの上昇となった。

6 雇用情勢 ～緩やかに持ち直している ➡



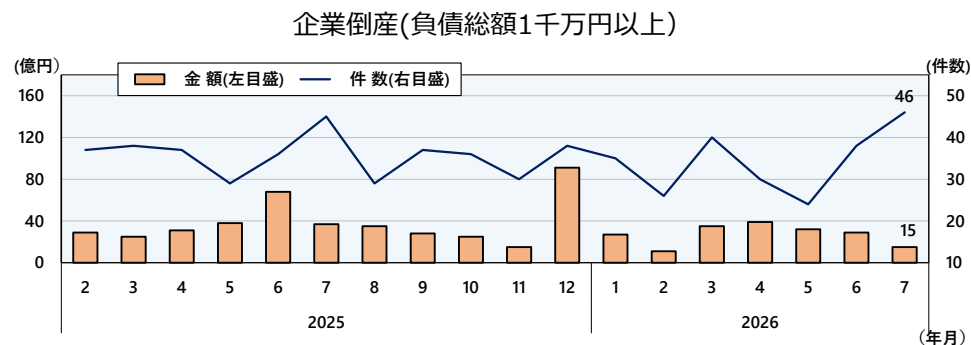
(資料) 厚生労働省、総務省

7月の有効求人倍率(就業地別、季節調整値)は、1.11倍で前月比0.02ポイント下降した。

新規求人倍率(同)は、2.02倍で同比0.11ポイント下降した。

また、完全失業率(南関東、原数値)は、2.3%で前年同月比0.1ポイント上昇した。

7 企業倒産 ～緩やかな増加基調にある ➡

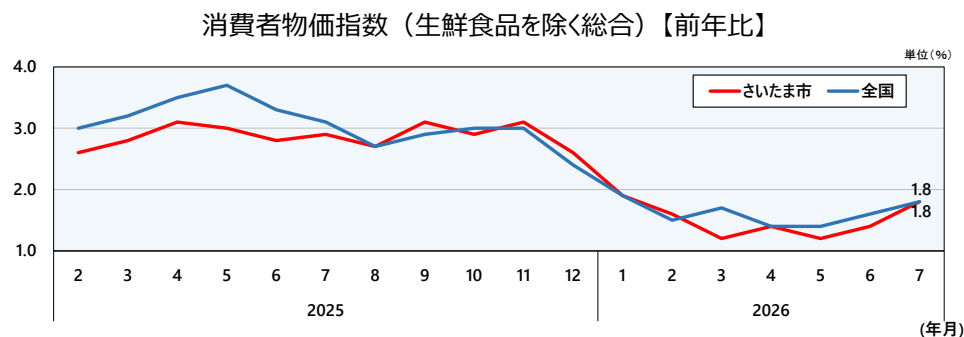


(資料) 帝国データバンク

7月の企業倒産件数は46件で前年同月比1件増加した。また、負債総額は15億円で同比22億円減少した(5か月後方移動平均では、件数は前年比1件減少、負債総額は10億円減少)。

業種別にみると、小売業が最多で13件、次いで建設業が11件、製造業が7件となっている。主因別では、販売不振が45件となっている。

8 消費者物価 ～緩やかに上昇している ➡



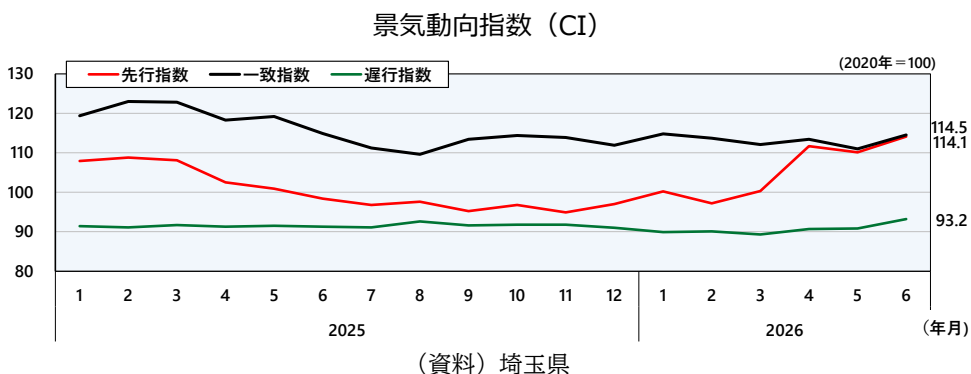
(資料) 総務省

7月の消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)は、102.2で前年同月比1.8%上昇した(58か月連続の前年同月上昇)。

食料(魚介類(まぐろなど))、交通・通信(交通(通勤定期(JR)など))などが上昇し、全体を押し上げている。

海外情勢の影響もあって原油価格は足もと上昇しており、先行きの動向については留意が必要。

〈参考〉景気動向指数(CI)～下方への局面変化を示している



(資料) 埼玉県

・6月のCI一致指数(景気の現状を示す)は、114.5で前月比3.5ポイント上昇し、2か月ぶりの上昇となった。

・CI先行指数(景気の数か月先を示す)は、114.1で同4.0ポイント上昇し、2か月ぶりの上昇となった。

・CI遅行指数(景気に遅れて反応する)は、93.2で同2.4ポイント上昇し、3か月連続の上昇となった。